



全国学力学習状況調査の結果

5月に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の本校における結果をお知らせします。学力調査は、国語、算数、理科の3教科について行われました。全国平均と比べると、国語はやや下回り、算数はほぼ同等、理科は上回る結果となりました。以下に結果の分析と、結果を生かした授業改善等についてご説明いたします。

I 結果の分析

- (1) 国語では「書く」領域「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる」や「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」ことの正答率が全国を上回りましたが、「知識及び技能」領域「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」ことに課題が見られました。
- (2) 算数では「図形：角の大きさについて理解している」「測定：はかりの目盛りを読むことができる」などの正答率が全国を大幅に上回りましたが、「数と計算：小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えること」が課題であることが分かりました。
- (3) 理科では「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる」など多くの問題で正答率が全国を上回りましたが、「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること」が課題であることが分かりました。

II 結果を生かした授業改善

- (1) 国語の課題を解決するために、授業では、文章を読んだ後に要点や段落の関係を図や表に表す活動を意図的に取り入れます。まず教師が因果関係や対比などの整理の仕方を板書で示し、それを基に児童に考えさせます。次に、図を見ながら自分の考えを説明させ、言葉と図を結び付ける経験を重ねることで、情報同士の関係を理解し表現する力の向上を図っていきます。
- (2) 算数の課題である「数と計算」を強化するために、小数を整数の見方に結び付けて捉える指導を工夫します。0.4や0.05を十分の一、百分の一という単位で表し、図や数直線を用いて大きさを比較させることで、共通する単位を意識させ、さらに、整数に直して考える活動を繰り返し、なぜその単位でそろえるのかを言葉で説明させることで、理解の定着を図ってきています。
- (3) 理科の課題を解決するために、結露を単なる現象として扱うのではなく、水の状態変化と温度の関係に着目させます。温度の異なる容器に水を入れて観察し、水蒸気が冷やされると水にもどることを確かめます。その際、これまでに学習した蒸発や凝結と関連付けて考えさせ、図や言葉で説明させることで、温度による水の状態変化を概念的に理解できるようにしていきます。
- (4) 昨年度に引き続き、本年度も5月と11月に村瀬公胤先生(麻布教育ラボ所長)を講師にお招きし、「学び合う授業研究会」を開きました。全学級担任が授業公開を行い、学び合いの授業に焦点をあ

